

感動新聞

平成23年12月号 発行者 細川栄一

皆様、元気ですか？ 成功する秘訣はAAS（明るく、愛嬌、素直に）だそうです。意識してやりましょう。ビジネス経営の最前線で頑張っておられる方の役に立つ情報となればと思います。喜んで頂ければ幸いです。

旗印をつくらう！

組織を一つにまとめるには、旗印のようなものが欠かせない。
旗印は、スポーツにおける優勝のように当たり前のものであってもいい。
しかし、もっと永続的なものであるほうが、なおいい。

「人間は困難は共にできるが、いい暮らしは共に出来ない」という言葉があるが、例えば優勝することで旗印を失って、チームがばらばらになるようでは、目標の立て方が今一つなのだ。

スティーブ・ジョブズは人に夢やビジョンを語る時「**アーティスト**」という表現を多用していた。

ジョブズとチームが目指すのは、競争に勝つことでも、多大な収益を上げる事でもなく、アーティストとして可能な限り最高の仕事をする事だった。
多くのリーダーが占有率や増収増益を目標とするのに対し、ジョブズはビジネスに芸術的価値観を持ち込んだのだ。
これは魔法だった。
あらゆる仕事が「自己実現のため」「世界に痕跡を残すため」という崇高な黄金に変わるのだ。

だから、ジョブズがマッキントッシュの開発を進めていた頃のアップルには、世界を変えようと本気で考え、限界を超えて努力する若い社員が大勢いたのである。
大企業であるペプシコーラから転職したばかりのジョン・スカリーは、こうした社員たちを見て、アップルには磁場や霊的な力が存在し、人々に催眠術をかけているのではないかと感じたという。特にジョブズと働くメンバーの顔には興奮が表れ、熱病に取りつかれたようだったという。それはペプシでは、決して目にする事はなかった光景だった。
ペプシは「勝つ」ことを目標とする闘争的な組織だったが、アーティストとして「世界を変える」興奮はなかった。

技術を最高に高める

ジョブズは、メンバーに「アーティストたれ」と熱気を与えたうえで、マッキントッシュの開発知チームにこう説いた。

「この製品を現実にするものは君たちの創造性、君たちの仕事だ。君たちはそれに多大な影響を及ぼすことができる」

仕事をする人間にとって、これほど動機付けがあるだろうか。
自分のやっている仕事単にパソコンをつくることではなく、世界に影響を与え、世界を変える為のものだということだ。
心が奮い立たないはずがなかった。

夢を共有してもらえないときは、角度を変えてみることだ。
平凡な夢でうなずいてもらえるよりも「ほら吹き」「何をバカなことを」とはじめは笑われながらも、徐々に賛同者が増えていくほうが、長続きするのではないだろうか。
夢にはセレモニーも欠かせない。
平凡な日常にお祭りを持ちこむのも、リーダーの役目のひとつである。
アーティストであれば、自分の作品に署名するのは当然のことだった。
1982年、マッキントッシュのチームはサインパーティーを開いた。
全員がサインをしたあと、シャンパンがふるまわれた。
そして、このサインはマックのケースに刻まれることになった。

参照「スティーブ・ジョブズだったらどうするね！」カリスマリーダーの問題解決力 桑原晃弥 あさ出版

スティーブ・ジョブズからのヒント働くのではなく世界に影響を与える」と考える！

彼の本を読めば読むほど、東洋的な生き方（禅など）が彼の人生に影響していると感じられる。